

「第75回 小平南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会」の報告

➤開催日時：令和5年9月13日（水）14時00分～15時30分

➤出席人数：会場10人（欠席8人） 傍聴：1人

1 デマンド型交通実証実験運行に向けたスケジュール（案）について

資料1について公共交通課から説明

- ・初めての事業のため、仕組みをよく知っていただき乗っていただくため、今年度は周知・PR活動の検討を行う。
- ・運行経費補助としては、他の地域と同様に600万円程度を目安にしたい。
- ・予約配車システムに係る経費も含むため、システム経費に応じて運賃を設定する必要がある。
- ・実証実験運行開始は令和6年度の早い時期を想定している。
- ・運行期間はコミュニティタクシーより長く、約1年程度を想定している。
- ・今後の予定として、警察署と乗降場所の現地調査を行い、予算議決後に予約受付システムの選定に係るコンサルタント会社との契約、運行事業者の選定を行っていく。

質疑

（座長）様々な関係機関と調整が必要なので、変更もあり得ることをご理解いただきたい。

- ・コンサルタント会社は決定したのか

→（公共交通課）コンサルタント会社は予算を確保してから10月以降に入札して決まる予定。

（座長）考える会の皆さんの要望だけでなく、専門的な知識も入れていく必要があるのでコンサルタントの支援を入れるのは良い考えだと思う

（公共交通課）昨日、市議会の総務委員会において、補正予算の審議があり、多くの質問があった。デマンド型交通として初めての予算とのことで注目を浴びたのだと思う。皆さんと1年以上かけて検討してきたものを土台に、主に予約配車システムの選定、実施計画の策定、国土交通省への認可申請手続きについてコンサルタントの支援をいただきながら進めていく。予約配車システムは実際に利用する皆さんの意見を取り入れて、使い勝手の良いものを導入していきたい。

（座長）利用者目線で進めていただけるのはありがたい

（公共交通課）予約配車システムに係る導入経費もシステム会社によってかなり金額に差がある。一定程度予算を考えながら、できるだけ質の良いものを選定していきたい

- ・実証実験運行を令和6年6月にスタートするのは決定なのか。

→（公共交通課）6月を目標に進めていく予定である。国交省への認可申請の手続きや警察署との調整によっては後ろ倒しになる可能性はある。

- ・今回の補正予算はシステム関係の経費か。

→（公共交通課）コンサルタント会社への予約配車システムの選定等に係る業務委託費である。

- ・コンサルタント会社の担当者が考える会の会議に出席することはあるか。現場の声を聴きたいと思うが。

→（公共交通課）資料は提供するが、書面で分からないことなど、状況に応じて足を運んでいた

多く可能性はある。例えばシステム会社が絞られてきたら、実際にシミュレーションを行い、皆さんに試していただくことができれば理想的だと考える。

- ・アプリだけなら簡単だが、コールセンターを設置すると、人件費がかかってくる。今から費用面のことも考えていた方がよい。
- ・どのようなシステムが可能なのかも聞きたいので、ぜひコンサルタント会社の担当者にはこの会議に出てほしい。

→（公共交通課）できるだけ現場の声を聴いていただくよう働きかけはしていく。

- ・今回委託するのはシステムの会社なのか。

→（公共交通課）システムの会社ではなくコンサルタント会社である。コンサルタント会社に皆さんの意見に応じた予約配車システムの会社を幾つか提案していただく予定である。最終的に予約配車システムを使うのは運行事業者なので、運行事業者の意向も汲みながら選定していく。

2 デマンド型交通の検討について

（1）実証実験運行に向けた検討課題について

- ・タクシー運賃・料金表（情報提供）

公共交通課から説明

多摩地区のタクシーの運賃体系を資料として配布

時間指定で予約する場合、初乗 500 円に迎車 300 円と予約 400 円の合計 1,200 円かかる。

- ・乗降場所

3つのグループに分かれて確認する。追加するところがあれば、挙げてもらう。

公共交通課から説明

これまでに皆さんに選定していただいた候補地から、狭くてすれ違いができない場所や、駐車場・交差点に近いところ、U ターンが必要な箇所を省いた。乗降場所が離れ過ぎているエリアについては、間に乗降場所を設けるか、こちらの道ならどうかという意見を、皆さんからいただきたい。

歩いて概ね8分以内にどこかしら行けるようになっているはず。なお、民家の前の設置は難しい。

（地図を見ながら意見を出し合う）

（公共交通課） 今後、警察署との調整を進めていくため、この乗降場所で確定ではないが、これから具体的に詰めていく中で候補として挙げていく。

（2）周知・PR方法について

（公共交通課）市報・HPのほか、地域の方に知っていただく方法・機会をグループに分かれて話し合い、最後に発表していただきたい。

（座長）チラシは作った方がいいか。

→（公共交通課）チラシもあった方がよい。まずデマンド型交通とは何かということを知したり、

地域の集まりに出向き、皆さんに PR していただくことも方法の一つと考えている。市も一緒に PR することも考えられる。そういった PR の場としてどんな場があるかも意見を出してほしい。

- ・コンサルタント会社から、説明用の資料をいただけるか。
→（公共交通課）資料はコンサルタント会社と協力し、公共交通課で用意する。
- ・コミュニティタクシーの実証実験運行を経て、新しい交通の検討をしているという流れも説明が必要なのでは。
コミュニティタクシーもやっと浸透してきたのに、いきなり新しいものが来たように感じてしまう。
- ・ぶるべー号の名称は引き継ぐのか。
→（公共交通課）それも皆さんで考えられると良い。

グループごとに発表

- ・「デマンド」は分かりにくいので「乗り合いタクシー」のようなキャッチフレーズを作ると良い。予約することを分かってもらえるような周知が必要である。
市報やHPはもちろん自治会への説明や、地域センターにポスターを掲示する。
学校にポスターを掲示するのも良いのではないかと。児童がポスターを見て親に説明する。
- ・市民に知っていただくために、市役所の1階で待っている間にアナウンスを入れる、またはデジタルサイネージに掲載するのも良いと思う。南西部地域だけでなく小平全体の人に知ってもらうことで、色々なつながりで地域の人に届くかもしれない。
- ・便利だと思ってもらえることが大事である。例えば、買い物に行く自分を想像する。だんだん歳を取り、車を手放すことになる。このような具体例を挙げてイメージが伝われば良い。便利に使う、そして生活を豊かにする、そんなことを実証実験の前に説明していきたい。
また中間アンケートも取り、どの地域に周知が足りていないのか、コンサルタント会社に分析していただくこともできるのでは。
- ・デマンド型交通が走って良かったと思えば、値段を気にせず使うと思う。タクシーでしか移動できなかった地域でも、新しい交通の方法をみんなで作り上げてきたということを伝えたい。走って良かった、みんなで支えようと思ってもらえるのでは。
- ・まず市全体に周知していただき、そのあと地域センターでの説明会など、細かく地域に周知していく流れが良いと思う。

3 その他

(1) 市からの情報提供

イベントでの利用促進について

8月、9月は初めて市外でぶるべー号チョコQを販売した。小平市を知っている、または、ゆかりのある人も多く、購入していただき、コミュニケーションが取れた。

チョコQという親しみやすいものをきっかけに公共交通をPRする良い機会になっている。

(2) 参加団体からの情報提供

鷹の台団地小平自治会から

① 東村山の「予約型乗合交通の導入に関する意見交換会」参加報告

- ・意見交換会は7か所の検討地域で行われた。
- ・運賃は500円（予約と迎車で1,230円になるのでそれに比べれば安いという考え方）

- ・家族の取扱いや、障がい者などの割引については検討中である。
- ・東村山も模索中であることが分かった。
- ・A4 でまとめた資料は分かりやすい。

→ (公共交通課) 職員も視察に行き、お互いに情報交換しながら進めていきたいと伝えた。
東村山は市が主導だが、小平は皆さんのような仲間がいることが強みなので、一緒に頑張っていきたい。

- ② 「こだいらクラフト FESTA2023 (クラフトビールのイベント)」について紹介
9月17日(日)、18日(月・祝) 東部公園

【今後の予定】

第76回 令和5年11月8日(水) 14時～ 小川公民館 ホール